

基本目標1

まちづくりは人づくり 生涯にわたる学びのまち
(教育・文化)

政 策	(1)心豊かにたくましく、共に生きる甲斐っ子づくり
	(2)人生を豊かにする学びとスポーツの環境づくり
	(3)だれもが安心して学べる教育環境づくり

基本目標 1

まちづくりは人づくり 生涯にわたる学びのまち (教育・文化)

甲斐市教育委員会では、教育振興基本計画として平成22年度に「創甲斐教育推進大綱^{*}」を策定し、平成26年度に見直しを行い、後期計画については目標年度を平成31年度までとして、現状に即した計画を実行してきました。

国は、平成30年6月に第3期教育振興基本計画を閣議決定し、また令和元年6月には県の教育振興基本計画が策定されたことから、本市ではこの2つの計画を参酌し、創甲斐教育推進大綱に続く「第2次創甲斐教育推進大綱」を令和2年3月に策定いたしました。このことから、この項目の現状と課題については、第2次創甲斐教育推進大綱の施策項目に沿って記述しています。

政策(1)心豊かにたくましく、共に生きる甲斐っ子づくり

■SDGsの目標との対応



- 4.1 2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。
- 4.3 2030年までに、すべての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。
- 4.4 2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
- 4.5 2030年までに、教育におけるジェンダー^{*}格差を無くし、障がい者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。
- 4.6 2030年までに、すべての若者及び大多数(男女ともに)の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする。
- 4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ^{*}、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
- 4.a 子ども、障がい及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。



- 17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

■現状と課題

●確かな学力の育成

基礎的・基本的な知識及び技能の定着と思考力・判断力・表現力等の育成を目指した学習指導を進めるとともに、児童生徒が主体的に学習に取り組めるよう、授業における指導の工夫・改善に努めています。

また、研究指定校による公開研究会等を通して確かな学力の育成の取組を市全体で共有し、確かな学力の向上を図っています。

全国学力・学習状況調査、山梨県学力把握調査の結果から、本市の児童生徒の学力は改善傾向にあるものの、基礎的・基本的な知識及び技能や思考力・判断力・表現力等に依然として課題があるため、言語活動や数学的活動の充実を図り、授業改善を進めていくことが必要です。

また、自らの学びを振り返り、主体的に学習に取り組む態度を育みながら、国語力の土台となる語彙力や表現力、構成力等を身に付ける機会を学校や家庭で作っていく必要があります。

●豊かな心の育成

道徳の時間の充実や教員の指導力向上を図るとともに、道徳の授業を地域・保護者に公開し、家庭・地域と連携して、子どもたちの道徳性を育む取組を進めています。

また、「甲斐っ子の宝」の取組を市内全校が統一して行い、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図っています。

いじめ・不登校については、未然防止の取組を推進するとともに、スクールカウンセラー*や「甲斐市適応指導教室オークルーム*」を活用し、再登校・学校復帰のための体制を整備しています。

今後も、「甲斐っ子の宝」の取組を進めることで、基本的な生活習慣の確立、規範意識の向上をさらに図っていく必要があります。

また、いじめ・不登校問題については、未然防止や早期発見・早期対応の取組をさらに推進し、家庭や関係機関と連携し、学校がチームとなって対応していく必要があります。

●健やかな体の育成

体育の授業や児童会・生徒会活動を通してラジオ体操を推進し、基礎体力の向上に取り組むとともに、走・投・跳などの動きや泳力(中学校卒業までに25m)といった基本的な技能を身に付け、生涯にわたって運動に親しんでいこうとする態度の育成に努めています。

また、健康に生活するために必要な食事・運動・睡眠を適切に取り、調和のとれた生活習慣が身に付くよう食育*を推進するとともに、生活習慣病・ネット依存等、多様化する心身の課題に対応するため、健康に関する授業の充実や教室の開催を通し、保健管理・健康指導の充実を図っています。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、全国平均値を下回っている測定種目が多いことから、運動する機会を確保し、体力の向上を図っていく必要があります。

また、食事・運動・睡眠の調和のとれた生活習慣を確立するため、学校と家庭が連携した取組が重要です。

●地域や社会で活躍する人材の育成

郷土学習教材「わたしたちの甲斐市」や「ふるさと山梨」を活用した郷土学習を推進し、郷土の

歴史や現状についての関心と理解を深めています。

また、授業や行事等、学校の諸活動に地域の人を招き、地域の良さや魅力が実感できるような機会を作っています。

今後は、地域の特色を生かした学校教育を推進し、郷土や地域に誇りや愛着を持つとともに、地域の現状や課題を知り、将来、地域や社会に参画・貢献していこうとする態度を育成していくことが必要です。

また、学校の教育活動全体を通して、自己肯定感や自己有用感を育み、一人ひとりの子どもたちの可能性や才能の伸長を図っていくことが重要です。

●キャリア教育の推進

本市では、各校がキャリア教育*全体計画、年間指導計画を作成し、各教科・道徳・総合的な学習の時間、特別活動の関連を図りながら、系統性を意識した取組を進めています。

本市の中学校における職場体験の実施率は100%であり、全ての中学校で複数日実施しています。

今後は、教育活動全体をキャリア教育の視点から振り返り、学校や地域の特色を生かした取組をさらに進めていくとともに、PDCAサイクル*により成果と課題を検証し、自立した社会人・職業人として必要な基礎的・汎用的能力を児童生徒が確実に身に付けられるようにしていく必要があります。

●家庭・地域の教育力の向上

子育てに関する学習会や教室を開催し、子育て中の親が育児に関する知識や技術を身に付けるとともに、仲間づくりを行う場を設け、子育てに関する情報交換と精神的な負担の軽減を図っています。

また、家庭児童相談室*を設置し、子育てに関する様々な問題について相談に応じるとともに、関係機関と連携した家庭環境・子育て環境の改善に対する支援を行っています。

交通安全・生活安全(防犯)の観点から、警察や保護者、地域ボランティアとの連携による通学路の安全点検や見守り活動を実施し、安全対策の充実を図っています。

本市でも、子どもの問題に関し、児童相談所等の専門機関と連携して対応するケースが増えてきているため、引き続き、学校と地域、行政の連携による家庭環境の改善や子どもたちの健全な育ちへの支援をしていく必要があります。

また、安全対策の充実を図っていくにあたり、災害安全(防災)の観点から、家庭や地域と連携した防災訓練の実施等について取り組んでいくことが重要です。

●家庭・地域・学校の連携・協働の推進

双葉西小学校をコミュニティ・スクール*に指定し、地域住民の学校運営への参画や連携強化を進め、地域全体で子どもを育成する取組を推進しています。

また、地域の人々を貴重な教育資源として捉え、学校の教育活動への積極的な参加を図ることで、子どもたちの豊かな体験と深い学びの機会を充実させるとともに、学校評議員制度や学校評価制度により地域住民の意見を学校運営に反映する取組を行っています。

さらに、学校開放日の設定、学校評価結果公表などを通し、地域に開かれた学校づくりを目指しています。

今後は、地域における人材バンクやネットワークづくりを進め、地域の力を学校教育に生かす取組をさらに進めていく必要があります。

また、地域の活動への子どもの参加を活発にするため、家庭・地域・学校・行政が協働した取組を進めていくことが重要です。

■今後の施策の方向

①確かな学力の育成

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、学習したことを定着させるために家庭学習を習慣化するよう取り組みます。

また、各教科等において、コミュニケーションの機会を積極的に取り入れるなど言語活動の充実を図り、児童生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、指導方法の工夫・改善を継続的に行います。

さらに、外国語教育・理数教育・情報活用能力・命を守る教育・主権者教育等、これからの時代に必要な資質・能力の育成を図ります。

②豊かな心の育成

子どもたちに豊かな人間性や社会性を育むために、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進するとともに、体験活動や読書活動を通して、多様なものの見方や考え方を身に付けさせ、豊かな情操を育みます。

いじめ・不登校の対応については、未然防止の取組に重点を置き、授業や諸活動を通して人間関係を形成する力や自己肯定感の育成、規範意識の向上を図ります。

また、人権教育・福祉教育・環境教育の充実を通して、他者を思いやる心や環境保全意識を涵養します。

③健やかな体の育成

学校の教育活動全体を通じて、基礎体力の向上を図るための取組を充実させるとともに、健康や食に関する指導を計画的に実施することにより、健康な生活を送るための土台づくりを推進します。

④地域や社会で活躍する人材の育成

地域の特色を生かした学校教育を推進し、郷土や地域に誇りや愛着を持つとともに、地域の現状や課題を知り、将来、地域や社会に参画・貢献していこうとする態度を育成します。

また、学校の教育活動全体を通して、自己肯定感や自己有用感を育み、一人ひとりの子どもたちの可能性や才能の伸長を図ります。

⑤キャリア教育の推進

社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力の基盤を身に付けていけるよう、キャリア教育^{*}の推進を図ります。

そのために、各学校がキャリア教育の視点を取り入れた教育課程を編成するとともに、学校や地域の特色を生かした取組を進めていきます。

また、小学校と中学校が連携した進路学習等の取組の充実を図ります。

⑥家庭・地域の教育力の向上

子育てについて学ぶ機会の提供や地域で子育てを支援する人材の育成を進め、家庭や地域の教育力の向上を図ります。

また、地域ボランティア等を活用し、登下校等の安全確保を図ります。

⑦家庭・地域・学校の連携・協働の推進

家庭・地域・学校が、よりよい学校教育を通じてよりよい地域を創るという目標を共有し、家庭・地域・学校が連携・協働する体制づくりを推進します。

■成果指標

達成目標指標	実績値 (平成26年度)	現状値 (平成30年度)	令和2年度 目標値	令和6年度 目標値
甲斐市学校評価・児童生徒用アンケートにおける「国語の授業の内容はわかりますか」の設問に「とてもわかる」「わかる」と回答した児童生徒の割合	小95.2% 中89.3%	小94.3% 中92.0%	小95.0% ^{*1} 中88.0%	小95.0% 中95.0%
			小95.0% 中92.5%	
甲斐市学校評価・児童生徒用アンケートにおける「算数(数学)の授業の内容はわかりますか」の設問に「とてもわかる」「わかる」と回答した児童生徒の割合	小94.0% 中78.0%	小93.3% 中84.3%	小95.0% ^{*1} 中81.0%	小95.0% 中90.0%
			小95.0% 中85.0%	
新) 甲斐市学校評価・児童生徒用アンケートにおける「外国語の授業は好きですか(内容はわかりますか)」の設問に「とても好き(わかる)」「好き(わかる)」と回答した児童生徒の割合	—	—	—	小75.0% 中70.0%
			※2	
「児童生徒のいじめに関する状況調査」における公立学校の「いじめの解消率」	小中98.0%	小中99.0%	小中100% ^{*1}	小中100%
			小中100%	
「長期欠席児童生徒状況調査」における「不登校児童生徒」の割合	小中0.98%	小中1.14%	小中1.10% ^{*1}	小中1.10%
			小中1.10%	
「山梨県新体力テスト・健康実態調査」における小学5年生と中学2年生のボール投げや50m走など8種目の数値を得点化した体力合計点(80点満点)	小53.8点 中48.6点	小54.9点 中45.7点	小55.0点 ^{*1} 中45.0点	小56.0点 中47.0点
			小55.0点 中46.0点	
新) 幼稚園や保育園との交流活動を年3回以上行った小学校の割合	—	54.5%	55.0% ^{*1}	80.0%
			55.0%	
新) 全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査における「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の設問に「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した児童生徒の割合	—	小58.2% 中46.8%	—	小65.0% 中55.0%
			小60.0% 中50.0%	

※1 令和2年度目標値の上段は「創甲斐教育推進大綱後期」の令和元年度目標値を記載

※2 参考となる直近の現状値が無い(アンケート未実施)ため令和2年度の目標値は未設定

達成目標指標	実績値 (平成26年度)	現状値 (平成30年度)	令和2年度 目標値	令和6年度 目標値
甲斐市学校評価・児童生徒用アンケートにおける「将来の夢や希望を持っていますか」の設問に「しっかり持っている」「持っている」と回答した児童生徒の割合	小89.4% 中73.2%	小88.4% 中75.9%	小90.0% ^{※1} 中80.0%	小90.0% 中80.0%
新)甲斐市学校評価・児童生徒用アンケートにおける「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の設問に「よく参加している」「だいたい参加している」と回答した児童生徒の割合	—	小81.2% 中61.8%	— 小85.0% 中63.0%	小85.0% 中65.0%
新)甲斐市学校評価・教職員アンケートにおける「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っていますか」の設問に「とてもそう思う」「そう思う」と回答した教職員の割合	—	小93.0% 中67.6%	— 小95.0% 中70.0%	小98.0% 中75.0%

※1 令和2年度目標値の上段は「創甲斐教育推進大綱後期」の令和元年度目標値を記載

■関連個別計画

計画名	計画期間
第2次甲斐市創甲斐教育推進大綱*	令和2年度～令和6年度

政策(2)人生を豊かにする学びとスポーツの環境づくり

■SDGsの目標との対応



4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ*、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。



11.4 世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。



17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

■現状と課題

●生涯学び、活動できる環境の整備充実

社会教育委員・公民館運営審議会等の委員は、各種研修等で得た知識や情報を活かし、それぞれの会議等で助言や情報提供に努めています。

しかし、生涯学習推進を図るため、社会教育委員をはじめとした各組織については、互いに情報を共有し連携した活動を行う必要があります。

市広報誌や市ウェブサイトなどを活用し、学習機会の内容等について広く情報を発信しています。また、生涯学習指導者人材バンク*を継続的に整備し、様々なジャンルの講師・指導者の確保を図っています。

今後は、多様化する市民ニーズの変化に伴い、さらに多様なジャンルの講師・指導者の確保が求められます。

各公民館等において年間を通じて多彩な講座・教室を開催し、多くの受講者に学習機会を提供しています。受講者の中から自主グループが誕生し、活動の成果を発表する取組を通して、メンバーの増加や学習の活発化につながるなど、生涯学習の循環が生まれています。

また、次代を担う子どもたちが創造性や知識の向上、伝統文化・食文化の継承、科学などに興味を持てるよう、子どもや親子を対象とした講座・教室を各公民館等で開催しています。

今後、高齢化が進む中で、年齢を重ねても生き甲斐を持って学ぶことができるよう、また、子どもから大人まで幅広い年齢層の市民が自主的に講座・教室に参加できるよう、庁内の関係部署において情報共有・連携し、多様な学習機会の提供を図る必要があります。

公民館等利用状況

単位:件

年度	竜王北部 公民館	竜王中部 公民館 ^{※1}	竜王南部 公民館	敷島 公民館	双葉 公民館	敷島総合 文化会館	双葉 ふれあい 文化館	地域 ふれあい 館 ^{※2}
平成25年度	3,045	1,626	1,183	1,703	1,553	1,201	518	258
平成26年度	3,437	1,561	1,778	1,723	1,707	1,336	469	306
平成27年度	3,626	1,677	1,578	1,613	1,797	1,319	408	284
平成28年度	4,241	—	2,117	1,522	2,077	1,288	434	345
平成29年度	4,219	—	2,127	1,639	2,060	1,255	434	297
平成30年度	3,976	1,332	1,572	1,617	2,128	1,258	490	296

※1 竜王中部公民館は平成27年度で閉館、平成30年度から竜王中部公園セミナーハウスが開館

※2 睦沢、清川、吉沢の3地区の合計

●青少年健全育成の推進

地域の中で青少年活動を活性化させるため、ジュニアリーダーやシニアリーダーを対象とした研修会等を実施するとともに、市子どもクラブ指導者連絡協議会主催の球技大会、野外活動及び各自治会の子どもクラブ(育成会)の活動を支援しています。

また、認定カウンセラーによるカウンセリングや未就学児の保護者を対象とした座談会形式のカウンセリング「子育てしゃべり場」を開催し、相談体制の充実を図っています。

しかし、少子化の進行や生活スタイルの多様化等により、集団活動や遊びの中で芽生える子どもたちの社会性を学ぶ機会が減少傾向にあることから、家庭と地域が共通認識のもと相互に連携して子どもたちの健全育成に取り組む必要があります。

また、スマートフォンやタブレット端末の普及によるインターネット依存の低年齢化や有害情報と容易に接触できる状況が危惧されます。

●文化芸術に親しむ機会の充実

甲斐市文化協会や各公民館等の自主グループ活動の充実・拡大を図るため、文化祭や各公民館まつり等を支援し、発表の機会の充実に努めています。

しかし、文化協会や自主グループにおいては高齢化が進んでいることから、若い世代へ知識・技術・伝統などの継承に取り組んでいく必要があります。

毎年、市内の小中学校・団体が参加する音楽祭を開催し、歌声や演奏披露の機会の充実に努めています。

また、郷土について学び、先祖が生きてきた過程を市民参加の演劇やミュージカルとして作り上げ、その成果を発表しました。

今後も、より質の高い文化芸術に触れる機会の充実に努める必要があります。

●歴史遺産の保存と活用及び継承

急速な都市化によって失われていく埋蔵文化財の調査・保存・管理を行い、調査によって得られた歴史遺産の公開に努めています。

歴史民俗資料館や文化財整理室など複数の関連施設には多くの民俗資料や歴史資料が保存されており、資料を活用した事業を実施しています。

市内には歴史遺産が収蔵・展示されている資料館などが複数ありますが、老朽化が進んでいることから展示や活用事業を総合的・計画的に行うことができる施設の整備が必要です。

●スポーツ事業と活動機会の充実

「市民一人1スポーツ」を目標に掲げ、体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、年間を通じて地域性や住民ニーズに即した各種教室や講習会、スポーツイベント、競技大会などを開催し、住民の目線に立って生涯スポーツ活動を推進しています。

スポーツ活動は、体力の向上だけでなく、ストレスの発散や生活習慣病の予防、また、地域間や世代間の交流を広げ、市民の豊かな生活を生み出すことが求められています。

●スポーツ参画体制の整備

活動を円滑にするために、スポーツ交流の推進、競技力向上のための指導者の養成、スポーツ少年団の育成を重点課題とし、組織運営、競技活動、交流機会の拡大、また、相互の連携と情報提供を強化し、講習会などの参加機会を充実させるとともに、環境美化や他事業参画による地域貢献も促してきました。

生涯スポーツを活性化させるサイクルには、原動力や駆動力となる組織が不可欠であり、甲斐市スポーツ協会やスポーツ少年団は、さらにその役割を強化する必要があります。

●スポーツ施設の整備充実

市民が健康で豊かな生活を過ごすために、だれもがスポーツに親しむことができる場として、体育館やグラウンドなどを開放し、施設利用機会の拡充に努めています。

市民一人ひとりが、日常生活の中でスポーツを楽しみ、また、健康づくりを目的に安全に施設を利用するためにはスポーツ施設の整備が必要です。

●図書館サービスの充実

市民の多様化・高度化する知的ニーズに応え、市民の問題解決、自主的な学習、文化活動を支援するための情報提供に努めています。また、地域資料の保存は図書館の責務であり、収集・保存及びデータ整理などに努めています。

今後も、すべての市民に公平に、判断材料としての情報を提供し、生涯にわたって自己形成を行うための学習活動を支援するため、継続して市民のニーズに応じ、幅広い資料を提供していく必要があります。

休館日の分散化や無線LANサービスを導入し、市民の利便性向上に努めています。

図書館は、施設と資料、そして利用者がついて発展するものです。図書館が充実し、市民のための図書館になるために、なお一層市民が必要とする利便性の高いサービスを提供する必要があります。

図書館利用状況

単位:人

施設名	項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
竜王図書館 ^{※1}	入館者数	302,966	308,722	301,077	282,072	249,642	285,962
	利用者数	105,318	115,484	118,312	122,338	125,362	130,832
	貸出数(冊)	365,769	363,860	370,975	379,347	380,731	376,914
敷島図書館	入館者数	161,835	153,782	155,689	151,297	151,828	139,210
	利用者数	61,051	63,946	66,492	62,601	65,465	62,408
	貸出数(冊)	204,154	198,096	199,635	194,787	197,809	183,763
双葉図書館	入館者数	75,066	72,993	75,264	66,654	62,879	60,857
	利用者数	35,611	38,817	41,333	38,633	36,395	33,241
	貸出数(冊)	123,849	122,300	127,040	119,726	119,764	104,069

※1 竜王中部・南部公民館図書室を含む

資料:図書館

●図書館事業の多面的推進

乳幼児から高齢者まで幅広く、読書推進や図書館利用推進に繋がる事業を展開しています。図書館は、いつでもだれもが利用できる施設です。文化的な潤いのある生活を営むため、図書館活動における様々な事業を充実させていく必要があります。

「甲斐市立図書館情報ネットワークシステム」の利用を促進し、学校図書室への資料援助や調査援助を実施しています。

学習に役立つ資料を提供するために、学校図書室だけでなく、広く市内の公共図書館から資料を提供することによって、学校図書室が学習情報センター的な役割を果たせるように援助する必要があります。

●子ども読書活動の推進

子どもの成長に合わせた読書環境を作り、また、その必要性を伝えるため、図書館でのおはなし会や幼稚園・保育園での移動図書館、保護者への啓発活動に取り組んでいます。

読書の楽しさを味わう絵本の読み聞かせから、感受性や思考力を養い、自己の表現力が培われた深い読書へと繋げるため、読書感想文講座を開催しています。

読書は、文字・活字離れの歯止めになるだけでなく、表現力・国語力を培う基礎となります。子どもたちの読書活動を支援するために、子どもの成長に合わせ、かつ総合的・計画的に推進する必要があります。

子どもたちが自由で自主的に活動できる環境を整えるため、資料の整備、読書推進の人材の養成を進めていく必要があります。

■今後の施策の方向

①生涯学び、活動できる環境の整備充実

市民だれもが生涯にわたって等しく学ぶことができ、生き甲斐のある充実した人生を送ることができるよう、趣味・教養的な学習はもとより、新たな知識や技術を習得するための学習活動等、幅広いニーズに対応した学習機会の提供を図ります。

また、生涯学習施設の維持管理、関係団体との連携強化、市民へ提供する学習内容・資料の充実を図ります。

②青少年健全育成の推進

多様化する社会の中で、青少年を取り巻く環境は大きく変化していることから、家庭・地域・学校が常に連携し青少年の健全育成を推進するため、次世代を担う青少年の指導体制の充実を図ります。

また、青少年の指導育成については、庁内の広範な部署に関係していることから、全庁的な調整推進組織である甲斐市青少年総合対策本部を中核として、青少年育成甲斐市民会議等の関係機関との連携を図りながら、まちづくりを支える人づくりを念頭において、青少年活動の活性化や健全育成の環境整備について、効率的・効果的な取組を推進します。

③文化芸術に親しむ機会の充実

市民の価値観が多様化する中で、多くの市民が創造的で心豊かな生活を送るためには、文化芸術に親しむ機会の充実が必要なことから、文化芸術活動に関する発表の機会について一層の周知を図ります。

また、市民が参加し芸術活動に触れる機会の創出に取り組むとともに、文化芸術団体の支援を通して、団体相互の連携と活動推進を図ります。

このほか、山梨県緑化センター跡地に整備されるフラワーパーク&ミュージアムを、文化芸術の拠点として活用し、市民の芸術鑑賞のさらなる機会の充実を図ります。

④歴史遺産の保存と活用及び継承

歴史遺産は、遠い祖先が日常生活の中で、長い年月をかけて創り出し、守り伝えてきた貴重な財産です。

また、市内各地域の歴史や文化を知るために欠くことのできないものであるとともに、特色ある地域の形成に大きな役割を果たしてきたものであることから、未来を生きる子どもたちのために、歴史資料の保存活用を総合的、効果的に進めるため、文化財保存活用地域計画を策定するなど、歴史遺産を適切に保存し、次世代へ継承していく取組を推進します。

⑤スポーツ事業と活動機会の充実

高齢化の急激な進展や、生活の利便性による運動不足が懸念される21世紀社会において、生涯にわたりスポーツに親しむことができるスポーツライフを実現することは、大きな課題です。

本市では、「市民一人1スポーツ」を目標に、スポーツ事業や活動機会の充実を図るとともに、「ラジオ体操のまち甲斐市」の取組の継続実施、また、高齢者や障がいのある方の運動への抵抗感解消と健康増進を図り、人生を豊かにするスポーツ環境づくりの充実を図ります。

⑥スポーツ参画体制の整備

将来を担う子どもたちや若者のスポーツ参加機会の拡充、また、ライフステージや体力状況に応じた事業を計画し、市民が主体的に参画できるスポーツ環境づくりを目指します。

また、スポーツを「する人」のみを対象とするのではなく、プロスポーツやトップ選手の競技大会などを「みる人」、そして指導者やスポーツボランティアといったスポーツを「ささえる人」に着目し、それぞれが生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境づくりのため、施設等のハード面、また、講習会や育成プログラム等のソフト面の支援体制を強化するとともに、それぞれの連携体制の構築を図ります。

⑦スポーツ施設の整備充実

市民一人ひとりが、日常生活の中でスポーツを楽しみ、また健康づくりを目的に、幅広い年齢層の市民に安全で快適に施設を利用できるように整備、充実を図ります。

⑧図書館サービスの充実

市民一人ひとりのニーズを満たす幅広い情報を提供し、問題解決や自主的な学習等を支援できる資料の収集や保存を図ります。

また、だれもが気軽に利用でき、市民のための図書館となるために、市民の役に立つ図書館サービスの充実を図ります。

⑨図書館事業の多面的推進

すべての市民が文化的で潤いのある生活を送れるよう、幅広く読書推進に繋がるための様々な事業を展開し、支援していくための取組を推進します。

また、高度情報化社会に対応するため、インターネット環境をはじめとしたサービスの充実を図り、「甲斐市図書館情報ネットワーク」を利用し、公共図書館と学校図書室が連携して学習資料などの様々な資料を提供するための取組を推進します。

⑩子ども読書活動の推進

読書は、自発的・内発的な活動であり、決して強制や干渉をするものではないため、引き続き子どもたちに読書の楽しさを感じさせる取組を推進します。

また、「第3次甲斐市子ども読書活動推進計画」に基づき、親子・家庭等での読書活動の推進を目的とする、ブックスタート事業や、本への興味を誘う活動として、図書館での資料展示や講演会などの事業の充実を図ります。

■成果指標

達成目標指標	実績値 (平成26年度)	現状値 (平成30年度)	令和2年度 目標値	令和6年度 目標値
新) 市公民館(地域ふれあい館、セミナーハウス含む)の利用者数	—	136,098人	— 138,000人	143,000人
新) 青少年育成甲斐市各地区民会議・甲斐市子どもクラブ指導者連絡協議会が主催する子どもを対象とした事業への参加人数	—	1,354人	— 1,400人	1,500人
新) 市生涯学習施設で開催される発表会等の参加者数	—	10,161人	— 10,400人	11,000人
新) 市内小中学校教員を対象とした郷土史教育研修、及び児童を対象とした地域学習への出前授業の参加者人数	—	1,109人	— 1,300人	1,360人
新) ラジオ体操事業への参加者数	—	30,670人	— 31,340人	34,000人
新) 市スポーツ協会加盟競技団体、専門部で実施した初心者教室への参加者数	—	1,256人	— 1,300人	1,500人
市スポーツ少年団の登録団員数	—	724人	750人 ^{※1} 750人	750人
市内スポーツ施設の利用者数	438,615人	472,104人	460,000人 ^{※1} 474,000人	480,000人
新) 市立図書館の入館者数	—	486,029人	— 487,000人	490,000人
新) 「甲斐・本の寺子屋 [※] 事業」への参加者数	—	—	— 200人	250人
新) Wi-Fi [※] の利用者数	—	4,728人	— 5,500人	6,000人
新) 幼稚園、保育園、児童館等への貸出冊数	—	12,085冊	— 12,200冊	12,500冊

※1 令和2年度目標値の上段は「創甲斐教育推進大綱後期」の令和元年度目標値を記載

■関連個別計画

計画名	計画期間
第2次甲斐市創甲斐教育推進大綱 [※]	令和2年度～令和6年度
第3次甲斐市子ども読書活動推進計画	令和2年度～令和6年度

政策(3)だれもが安心して学べる教育環境づくり

■SDGsの目標との対応



- 4.5 2030年までに、教育におけるジェンダー*格差を無くし、障がい者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。
- 4.a 子ども、障がい及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。

■現状と課題

●学校における働き方改革の推進

甲斐市教育委員会及び各学校が多忙化改善計画を作成し、会議や業務の効率化、学校行事や部活動の負担軽減、校内組織の見直しを進めてきました。

また、学校閉庁日や放課後に会議や部活動を行わない「きずなの日」を設定し、子どもと向き合う時間を確保するとともに、勤務時間の管理等の取組による教職員の意識改革を図っています。

今後も、多忙化改善計画に沿った業務改善を実施するとともに、校務支援システムの活用を図ることで、学校における事務の効率化を進め、教職員の負担軽減と教育の質の向上に努めていく必要があります。

●魅力ある学校を支える指導体制の充実

学校教育支援員の増員と適正配置により、学力の向上や不登校児童生徒への対応、特別な配慮を要する児童生徒への生活・学習等に関し、きめ細かな指導及び支援ができる体制の構築に努めています。

また、甲斐市教育委員会主催の研修会を開催し、教員の指導力や資質の向上を図るとともに、学校評価システム*による学校運営のPDCAサイクル*を確立し、学校の組織的・継続的な改善を行っています。

今後も、「授業がわかる」、「居場所がある」、「安全・安心な学校生活を送ることができる」といった、魅力ある学校づくりのために、教職員を対象とした研修の実施や指定校による研究推進により、教職員の資質向上に努めるとともに、学校教育支援員の適正配置による指導体制の充実を進めていく必要があります。

●安全・安心で質の高い教育環境の整備

ICT*環境の整備を行うとともに、全小中学校への冷暖房設備の設置や校舎の大規模改修、教室の増改築を進めるなど、学校施設の充実を図っています。

今後は、学校施設長寿命化計画に基づき、老朽化対策を計画的に進めるとともに、情報活用能力の育成やプログラミング教育*へ対応するため、パソコン教室をはじめとした情報教育機器の整備を図っていく必要があります。

また、ICTを活用した分かりやすい授業の充実のため、教育用デジタルコンテンツを整備していくことも重要です。

●すべての子どもの学習機会の支援

経済的な理由により就学が困難な児童生徒に対して、就学援助^{*}費・特別支援教育就学奨励費による支援を行っています。

また、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導や支援を実現するため、継続的な就学相談に対応できるよう年間を通じた相談体制を整備してきました。

今後は、子どもたちの将来が生まれ育った環境によって左右されることのないよう、生活困窮世帯等を対象とした就園・就学に関する援助の充実や学習機会の確保を図ることで、貧困の連鎖の防止に努めていくことが重要です。

●多様性を包み込む教育の推進

全小中学校に学校教育支援員を複数配置し、一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細かな支援・指導の充実を図るとともに、通級指導教室^{*}を設置し、障がいによる学習上・生活上の困難の改善に努めています。

また、不登校児童生徒の再登校の足がかりとして「甲斐市適応指導教室オークルーム^{*}」を設置し、学校復帰への支援・指導の充実を図っています。

今後は、一人ひとりの子どもたちの教育的ニーズに対応するため、特別支援教育に関する教職員の専門性の向上が必要となります。

また、障がいの重度・重複化、発達障がい傾向のある児童・生徒が増加していることから、関係機関と連携した対応の充実が求められます。

不登校への対応としては、オークルームの指導体制や環境整備をさらに充実させていくことが重要です。

■今後の施策の方向

①学校における働き方改革の推進

教職員一人ひとりが子どもたちと向き合い、心を通わせた教育活動を推進するため、学校における働き方改革として業務の役割分担・適正化等を進め、教材研究や子どもと向き合う時間の確保を図ります。

また、教員以外の専門スタッフや外部人材との連携を進め、チームとしての学校体制の構築や、教員が専門性を発揮した教育活動の展開を図ります。

②魅力ある学校を支える指導体制の充実

授業がわかる、居場所がある、安全・安心な学校生活を送ることができるといった、魅力ある学校づくりのために、研修等を通じた教職員の資質向上と学校評価制度を活用した特色ある学校づくりによる指導体制の充実を図ります。

③安全・安心で質の高い教育環境の整備

学校施設長寿命化計画に基づき、学校施設の整備を進めます。また、学校運営の充実を図るとともに、学校のICT*環境の整備を進め、質の高い教育環境の整備を図ります。

④すべての子どもの学習機会の支援

一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な就園・就学のための相談体制の整備を行うとともに、子どもたちの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、生活困窮世帯等の子どもを対象とした「甲斐市子どもの学習支援事業」を実施し、学習機会の確保を図ります。

⑤多様性を包み込む教育の推進

特別支援教育等、多様なニーズに対応し、子どもたちが安心して学べ、一人ひとりの資質・能力を最大限に伸ばす教育を推進します。また、教育と福祉の連携のほか、県や関係支援団体と連携・協働した支援を行います。

■成果指標

達成目標指標	実績値 (平成26年度)	現状値 (平成30年度)	令和2年度 目標値	令和6年度 目標値
新) 年間20回以上「きずなの日」を実施している学校の割合	—	小27.2% 中20.0%	— 小100% 中100%	小100% 中100%
新) 甲斐市学校評価・教職員アンケートにおける「あなたは校内研究(研修)に主体的に関わっている」の設問に「とてもそう思う」と回答した教職員の割合	—	小51.2% 中34.2%	— 小55.0% 中40.0%	小60% 中50%
新) 「甲斐市子どもの学習支援事業」に参加した生徒のうち満足と感じた生徒の割合	—	—	— ※1	90.0%
新) 小中学校の全教員のうち、特別支援教育に関連した研修会を受けた割合	—	小80.3% 中60.4%	— 小85.0% 中65.0%	小95.0% 中85.0%

※1 参考となる直近の現状値が無い(アンケート未実施)ため令和2年度の目標値は未設定

■関連個別計画

計画名	計画期間
第2次甲斐市創甲斐教育推進大綱*	令和2年度～令和6年度

